

産業技術聯盟の結成

技術家の大同團結と云ふ事は久しい間の懸案であつた、その一過程として工政會と日本工人俱樂部(現在日本技術協會と改稱)とが合併すると云ふ問題も技術社會の長い間の懸案であつた。

大體に於て同一目的の公共團體であるから合併の理由はあるが、幹事や役員の種類々な個性に囚はれて意見は一致せず常に行惱みの體であつた。然し時局は重大で、技術家の使命は從來の如き孤立的な態度を許さなくなつた。昨年来醫學博士岡田道一氏の近衛首相に呈するの書が導火線となつて、各省に於ける技術官の連携運動が強化され、其運動は日本技術協會等を通して特に進展して來た。

而して熱血の青年農相たる有馬頼寧伯が、日本技術協會の會長に推された、これは實に日本技術協會創立以來の革新的な異彩である。近衛内閣中の最も革新的な思想を有する有馬伯が會長になつてからの日本技術協會の役員は、急に明い運動が力強く出来る様になつた。從來から時々催してゐた座談會なども、急に有力な大家が顔を出さなくなつた。現に七月六日の座談會では山下興家氏の意見が因となつて日滿支技術プロツクの根本問題に就て、八田嘉明氏や大藏公望氏などから激論を交はされてをる。技術家である此等の諸氏が此重大時局に際し如何に眞劍にして熱烈なる愛國的關心を持つてゐるかを知れて我等もその敬意を表し度くなつた。此等の情勢の波及する處に技術界の革新を促したのは當然である。斯くて八田氏が理事長である工政會では、從來の一切の行懸りを捨て、遂に大同團結の『産業技術聯盟』の結成に乗出したのである。而して九月に入つてから結成式の準備に取掛つて、九月十日には早くも日比谷公會堂に盛大なる結成發會式を擧げたのであるから、其間の幹事諸君の奔走と努力は想像以上のものであつたらうと思ふ。

當日は技術家の會合としては、珍らしい様な會場風景で、幾分政治運動的な情況に見られる程な熱意に満ちたものであつた。八田氏は朝鮮出張中而出席出来なかつたが、井上匡四郎博士が座長に押しされ、司會者としては聯盟結成の準備に、最も働いてをる工政會の小野俊一氏が開會の熱辯を揮つて力強い意氣を示した。

有馬伯も聯盟の一員として、此結成は官僚技術家の待遇改員運動など、異なる所以を力強く述べ、次いで近衛首相の祝辭を代讀し來賓として板垣陸相、荒木文相、伍堂前商相なども自ら祝辭又は演説をなし大阪市より列席した栗本勇之助氏も北海道産業開發の痛切なる論旨を以て技術家に呼掛け、最後に宮本武之輔博士の閉會の辭を以て會は終つた。

散會後一同二重橋前に參集し、宮城を拜して有馬農相の發聲にて萬歳を三唱し、皇軍の武運長久を祈つた。

次いで午後六時より東京會館に於て有志の晚餐會を催し、出席會三百餘名で盛會を極めた。記者は時間の都合で當夜のテーブル・スピーチを聞かなかつたが恐らく各方面の技術家から熱辯が揮はれた事と思ふ。

産業技術聯盟は斯くして盛況に結成發會された、此處迄に纏める事も容易ならざる努力であるが、今後に於て各専門を異にする技術家が、聯盟の指導精神に何時まで共鳴するか、而して共鳴の實を擧げ得るか、今後一層の努力を要する點である。

九月十九日の東京朝日新聞は社説に於て『社會機構と技術』と題し、産業技術聯盟の目的を詳細に批評してゐるが、其中に「技術的に全社會の機構を改造し再建せんとするのは結局空望ではなからうか」と云ひまた「技術をもつて社會の統御者支配者に仲者入りしようとするのは理論的にも、實際的に不可能であり、また好ましきことでもないのではなからうか」と結んでゐる。

新しき運動に對しては種々な誤解を生ずるのだ、然し眞實の技術の力が社會の各機構の中に強大に現はれつゝある事實は何人も否定出来ないのである。産業技術聯盟が團結を強化し、技術を統制して、國策に乗出す事は今後の重要な使命である。

産業技術聯盟趣意書

我國は今や建國以來の歴史的時期に際會してゐる。東亞の天地は支那事變を契機として新しい政治經濟組織の建設にその第一歩を踏み入れたのである。この秋に際し吾等は國內諸般の整備革新を斷行し國力の充實伸張を圖ると共に新東亞の積極的建設のた

めに努力しなければならない。

これに對し朝野各方面に於ても夙に時局の重大なるを認識し、各種國策の提案並に調査機關の創設等夫々對策に腐心し、着々その實行を見つゝあるは國民の齊しく認むるところである。然るに之等各種國策の内容並にその實績を具に検討するに、動もすれば形式に墮し近代技術の使命を輕視し周密なる科學的計慮を疎にせるやの感なきを得ない。

惟ふに新東亞の建設に於て最も肝要なるは國力の充實にして、國力充實は生産力の擴充にある。而して生産力の本質は生産技術である。従つてこの際總ての國策は常に生産力擴充の線に沿ふ近代生産技術—自然科學並に社會科學兩方面に互る綜合的生產技術—の立場から攻究企畫せられなければならない。

茲に於て、吾等は敢て乏しきを掲げて立ち「産業技術聯盟」を結成して、吾等技術者の總動員化を圖ると共に、廣く技術を理解する人士の協力を求め、官民一致、公明遠大なる綜合的技術の見地より産業を樞軸とする重要國策を樹立し、以てその實現を圖らんとするものである。

こゝに吾等は、本聯盟創立の意義を理解し、俱に吾等日本國民の世界史的使命達成に勇躍せんとする具眼熱意の士の積極的參加を待望して敬まざるものである。

發 起 者

社團法人 工 政 會
社團法人 日 本 技 術 協 會
大藏、内務、農林、商工、逓信
鐵道、厚生 七省技術者協議會
對 支 技 術 聯 盟

綱 領

- 一 近代技術ノ意義ヲ體得セル技術者並ニ斯ノ技術ノ意義ヲ理解スル人士ヲ糾合シ堅實強力ニシテ最モ信頼スベキ團體ヲランコトヲ期ス
- 二 綜合的生產技術ニ立脚シ公明遠大ニシテ最モ適切ナル國策ヲ樹立シ之ガ實現ヲ期ス
- 三 東亞一體ノ見地ニ立チ協力一致シテ之ガ再建設ノ指導並ニ遂行ニ當ランコトヲ期ス

産業技術聯盟規約要綱

- 一 名 稱 本聯盟ハ産業技術聯盟ト稱ス

二 目 的 本聯盟ハ公明ナル技術的立場ニ於テ國策ヲ企畫シ其ノ實現ヲ圖ルヲ以テ目的トス

三 事 業 本聯盟ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フ

- (一) 技術ヲ根幹トスル産業國策ノ調査企畫
- (二) 産業ニ關スル大規模ナル國策企畫機構創設ノ促進
- (三) 産業ニ關スル各種團體ノ聯繫
- (四) 其ノ他本聯盟ノ目的達成ニ必要ト認メラルル一切ノ事業

四 構 成 本聯盟ノ構成員ヲ分チテ左ノ三種トス

- (一) 正會員——本聯盟ノ主旨ニ賛同シ進シテ之ガ目的遂行ニ貢獻セントスル個人
- (二) 支持員——本聯盟ノ主旨ニ賛同シ協力セントスル協會、學會、組合等ノ團體
- (三) 贊助員——本聯盟ノ主旨ニ賛同シ經費ヲ負擔スル個人及團體

五 經 費 本聯盟ノ經費ハ構成員有志其他ヨリノ贈金ニ依ルモノトス

六 役 員 本聯盟ニ不取敢、幹事若干名ヲ置キ(暫定的)會務ノ審議決定ニ當ラシム、幹事中一名ヲ專任幹事トシ事務局ヲ主宰セシム

七 事 務 局 本聯盟ニ事務局ヲ設ケ、本聯盟ノ事業遂行ニ必要ナル各種ノ調査起案、調査機關ノ統制、支持員ノ連繫等ニ當ラシム

八 調 査 機 關 本聯盟ニ各種ノ委員會ヲ設ケ、各種國策並ニ本聯盟ノ事業遂行ニ必要ナル事項ノ審議企畫ニ當ラシム

本聯盟に加入を希望せらるゝ各位は、住所姓名並に出身學校名、職名、生年月日を明記し、本聯盟の支持員たる左記團體の何れかへ便宜御申込み下さい

社團法人 工 政 會
社團法人 日 本 技 術 協 會